

令和5年度 地理総合 シラバス

令和5年度		学校名	県立球陽高等学校	学科・コース名	理数科・国際英語科	クラス	1・2・3・4・5・6・7組	単位	2	学年	1		
年間指導計画		教科名	地歴	科目名	地理総合	使用教科書・副読本	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料COMPLETE2023（帝国書院） 新地理総合ノート（帝国書院）						
科目の目標	柱書	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。											
	知識及び技能	地理に関わる諸問題に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	国際社会や日本国内における諸課題について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現に向けて自ら課題を発見、主体的に追究し、課題を解決しようとする態度を養うとともに、自他の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。											
評価の観点	知識及び技能	地理的事象についての基本的な事柄と地球的課題への取り組みを理解し、その知識を身につけ、地図や地理情報システムなどを活用する技能を身につけている。					評価方法 【理数科・国際英語科 共通】 ①各学期に行われる定期考査にて評価する。 ②単元を貫く問いに対する記述にて評価する。						
	思考力・判断力・表現力等	国際社会における地理的諸課題を見出し、歴史的背景などと関連づけながらその特性を多面的・多角的に考察したり、構想したことを効果的に表現してしている。											
	学びに向かう力、人間性等	地理的事象や地球的課題に対する関心を高め、主体性を持って他者と協働しながら課題解決に向かい、持続可能な社会の形成者として自覚を持っている。											
評価の表記について 学習改善に生かす評価=●は毎時間行うもので、ここに表記しない。評定に用いる評価=○、そのうち、ペーパーテストで見取る評価=◎で記載する。													
学期	月	大項目	中項目	単元名	配当時間	FQ (単元を貫く問い)	小単元名と考査の位置づけ	MQ (本時の問い)	評価の観点			進度	
									編	章	節		知
1学期	4			オリエンテーション	1								
				第1部 地図と地理情報	1節 地球上の位置と時差	2	地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活とどのように結びついているのか。	1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差とわたしたちの生活	1 緯度の違いは私たちの生活にどのような影響をあたえているのだろうか。 2 時差は、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。	◎			
					2節 地図の役割と種類	4	私たちの身の回りにはどのような地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのだろうか。	1 地球儀と地図 2 身の回りの地図 3 統計地図の種類と利用 4 GISの活用 【一学期中間考査】	1 なぜ地図にはさまざまな図法があるのだろうか。 2 主題図と一般図には、どのような表現方法や用途があるのだろうか。 3 統計地図にはどのような種類があり、どのように使い分けられているのか。 4 地理情報システムはどのように活用されているのか。	◎	○	○	
				第2部 結び付きを深める現代世界	1節 現代世界の国家と領域	2	国家の領域や国境はどのように定まっているのか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのか。	1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域	1 国家の領域や国境にはどのような決まりがあるのだろうか。 2 日本の位置や領域、排他的経済水域にはどのような特徴があるのだろうか。	◎	○	○	
	2節 グローバル化する世界	5	グローバル化が進展する中、世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などのどのように結びついているのか。		1 国家間の結びつき 2 貿易によって結びつく世界 3 様々な交通網の発達 4 世界を結ぶ通信網の発達 5 観光のグローバル化	1 世界の国々の結び付きは、時代とともにどのように変化したのだろうか。 2 世界の国々の貿易には、どのような特徴や課題があるのか。 3 私たちの生活を支える交通網は、どのように発達したのか。 4 通信網の発達により私たちの生活はどのように変化したのか。 5 グローバル化によって観光はどのように変化したか。	◎	○	○				
	6			序説 生活文化の多様性	1	世界各地の多様な生活文化を考察するには、どのような方法があるのだろうか。	1 生活文化を考察する方法	1 世界各地の多様な生活文化を考察するには、どのような方法があるか。		○	○		
				第1章 生活文化の多様性と国際理解	1節 世界の地形と人々の生活	4	人々は多様な地形とどのように関わり、どのような生活を営んでいるのか。	1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 3 安定地域と人々の生活 4 河川がつくる地形と人々の生活 5 海岸の地形と人々の生活 6 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形の人々の生活 【一学期期末考査】	1 大地形は、人々の生活とどのように関わり合っているのか。 2 変動帯の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 3 安定陸塊の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 4 河川がつくる地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 5 海岸の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 6 氷河・乾燥・カルスト地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。	◎	○	○	
					2節 世界の気候と人々の生活	6	人々の生活は、それぞれの気候要素とどのように関わり合い、どのような生活が営まれているのか。	1 気温・降水と人々の生活 2 大気循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	1 気温や降水は人々の生活にどのような影響を与えているのか。 2 風は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 3 世界の植生は、気候とどのように関わり合っているのか。 4 熱帯の気候と植生は、人々の生活にどのように関わり合っているのだろうか。 5 乾燥帯の気候と植生は、人々の生活にどのように関わり合っているのだろうか。 6 温帯の気候と植生は、人々の生活にどのように関わり合っているのだろうか。 7 亜寒帯・寒帯の気候と植生は、人々の生活にどのように関わり合っているのだろうか。	◎	○	○	
	7			オセアニアでは、自然環境を生かして、どのような生活文化や産業が育まれてきたのか。	1	追究事例 自然1 乾燥した大陸と太平洋の島々での生活ーオセアニア 1 人々を引きつける多様な自然環境 2 自然環境を生かした産業と人々の生活	1 多様な自然環境は、人々の暮らしにどのような影響を与えたのか。 2 オセアニアの人々は、自然環境をどのように産業に生かしているのだろうか。	◎	○	○			
				東南アジアでは、自然環境を生かして、どのような生活文化が育まれてきたのか。	1	追究事例 自然2 モンスーンの影響を受けてきた人々の生活ー東南アジア 1 モンスーンの影響を受けてきた人々の生活 2 自然環境を生かした産業と人々の生活	1 モンスーンは、東南アジアの人々の生活にどのような影響を与えたのか。 2 東南アジアでは、気候を生かしてどのような農業が発達したのか。	◎	○	○			

3 学期	1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災	1節 日本の自然環境	2	日本の地形や気候はどのような特徴があるのだろうか。	1 日本の地形 2 日本の気候	1 日本の地形にはどのような特徴があり、どのようにして形成されたのか。 2 日本の気候にはどのような特徴があり、地域差はどのように生じているのか。	◎	○	○		
				2節 地震・津波と防災	2	地震や津波は、どのような災害をもたらすのか。また地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのか。	1 地震・津波による災害 2 地震・津波の被災地の取り組み	1 地震・津波による災害は、地域によってどのような違いが生じるのか。 2 地震・津波に対して、どのような防災・減災の取り組みが行われているのか。	◎	○	○		
				3節 火山災害と防災	2	火山はどのような恵みや災害をもたらすのか。また、火山災害に備え、どのような取り組みが必要か。	1 火山の恵みと災害 2 火山と共生する地域への取り組み	1 火山は、人々の生活にどのような恵みや災害をもたらすのか。 2 火山と共生していくため、どのような取り組みが必要なのか。	◎	○	○		
	4節 気象災害と防災			2	これらの気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのか。また気象災害に備えて、どのような取り組みが必要か。	1 さまざまな気象災害 2 気象災害への取り組み	1 気象災害は、場所によってどのような違いがあるのか。 2 気象災害に対して、どのような取り組みや課題が見られるのか。	◎	○	○			
	5節 自然災害への備え			2	自然災害への日頃の備えには、どのようなものがあるのか。また災害発生時の危機管理体制は、どのように整備されているのか。	1 減災の取り組み 2 被災地への支援 【学年末考査】	1 自然災害の被害を減らすためには、どのような取り組みが必要なのか。 2 自然災害の被災地には、どのような支援が必要なのか。	◎	○	○			
	2		第2章 地域生活圏の展望	1節 生活圏の調査と地域の展望	3	私たちの生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のために展望を見いだしていけばよいのだろうか。	1 地理的な課題と地域調査 2 現地調査の準備 3 現地調査の実施 4 調査の分析と発表	1 生活圏の地理的な課題を探究するため、どのように調査を始めればよいのか。 2 現地調査の前には、どのように事前調査や調査計画を行えばよいのか。 3 現地調査を効率的に行うには、どのような準備や行動が必要か。 4 調査結果をまとめて発表する際には、どのような工夫をしたらよいのか。		○	○		